

鴻臚館の発見

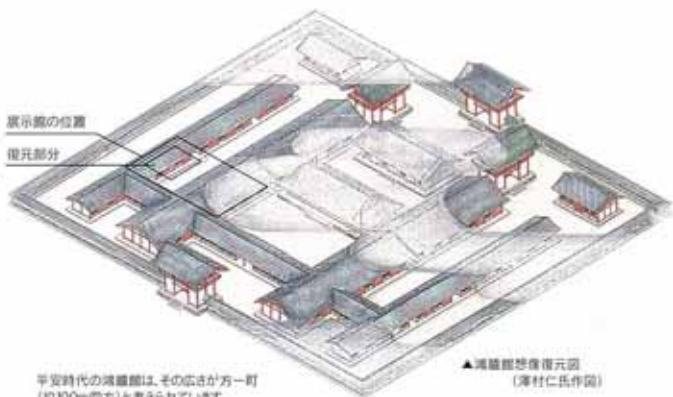
中山平次郎博士は、九州帝国大学医学部教授として優秀な医学者を育てる傍ら、考古学にも深い関心を寄せられ、大正時代から昭和初期に九州考古学の先駆者として、わが国の考古学史上に大きな足跡を残されました。

筑紫の鴻臚館の場所についても、江戸時代以来、博多官内町(現在の博多区中呉服町付近)説が有力でしたが、1926(大正15)年に中山博士が福岡城内説を発表され、大きな反響を呼びました。そして中山博士の説は、61年後の1987(昭和62)年末の調査によって確かめられました。



▲福岡城内の万葉歌碑(1978年建立)
天平8(796)年に遣唐使一行が筑紫郡に訪れた和歌の一首
今よりはたづみあらしあひむきの山相国にむてらし美さぬ
中山博士はこの和歌などをヒントに鴻臚館の場所を福岡城内とした

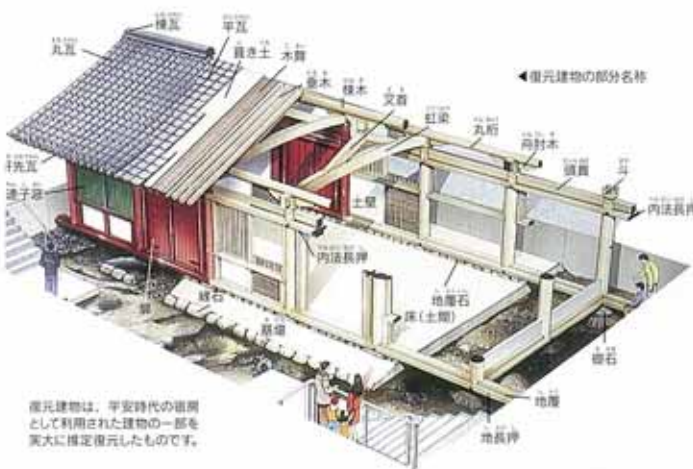
鴻臚館の復元



展示館の位置
復元部分

▲鴻臚館想像復元図(澤村仁氏作図)

平安時代の鴻臚館は、その広さが方一町(約100m四方)と考えられています。



▲復元建物の部分名称

復元建物は、平安時代の遺構として利用された建物の一部を実大に再現復元したものです。

鴻臚館関係年表

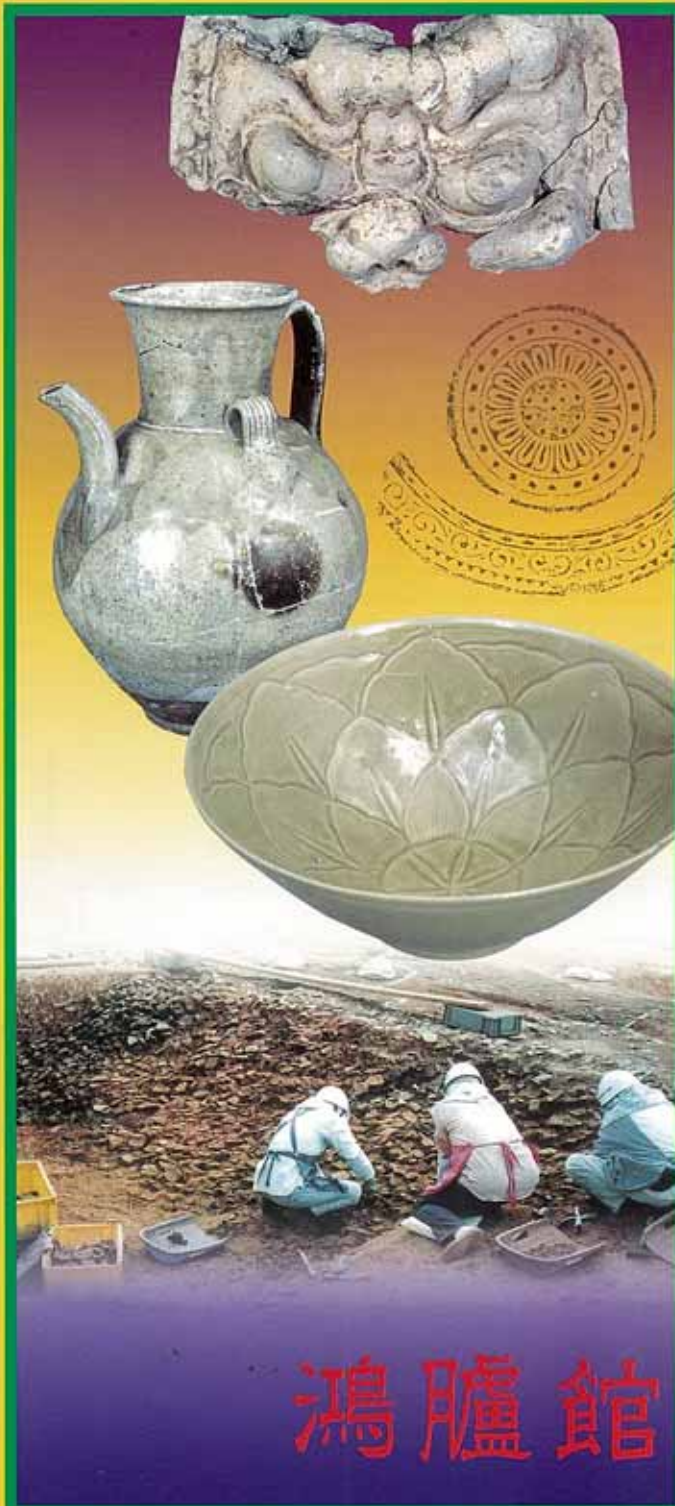
時代	西暦	和暦	日本の主なできごとと鴻臚館	中国	朝鮮
飛鳥時代	663	天智2	白村江の戦いで、唐・新羅連合軍に日本軍敗れる。	(618)	高句麗
	664	天智3	筑紫に防人と烽を置き、水城を築く。	唐	百濟
	672	天武元	壬申の乱起こる。		660
	688	持統2	筑紫館で新羅国使をもてなす。(筑紫館の初見)		668
	701	大宝元	大宝律令制定。大宰府諸制度を整備。		
	710	和銅3	平城京に都を定める。	898	
	736	天平8	遣新羅使が筑紫館で和歌を詠む。		新
奈良時代	740	天平10	藤原広嗣の乱。		
	752	天平14	東大寺大仏開眼。		
	753	天平15	唐僧鑑真大宰府に来る。		
	794	延暦13	平安京に都を定める。		
	838	平和5	遣唐副使小野篁大宰鴻臚館で唐人沈君約と詩を唱和する。(鴻臚館の初見)	唐	
平安時代	847	承和14	入唐僧円仁帰国。鴻臚館に滞在。		
	858	天安2	入唐僧円珍帰国。鴻臚館北館門柱に詩を詠む。		
	862	貞観4	入道高岳親王が鴻臚館より唐へ発つ。		
	863	貞観5	新羅僧らが博多刺に来り、鴻臚館に留め居る。		
	866	貞観8	大唐商人張吉らを鴻臚館に留める。		
	869	貞観11	博多津警固のために兵士や武器を鴻臚館に移す。 新羅海賊博多津侵入。鴻臚館中島館や津原の名が現れる。		
	873	貞観15	対馬に漂着した新羅人を鴻臚館に収容する。		
	894	寛平6	菅原道真の建議により遣唐使を廃止する。		
	895	寛平7	博多警固所に漢俘50人を増員する。		
	927	延長5	鴻臚館に兵馬20頭を分置する。	926	907
	931	承平元	襲(ヤサ)が鴻臚館に集まる怪あり。		935
941	天慶4	藤原純友の乱で大宰府陥失。		936	
945	天慶8	武蔵の船が松浦郡に来る。これを鴻臚館に安置する。	五代	高	
1047	承平2	大宰府。宋客の宿舎への放火犯人を捕まえる。			
1091	寛治5	某が鴻臚館で、宋商人李居簡の模本より経本を比較校正する。(平安京鴻臚館の記事と考えられる。)	960	宋	

鴻臚館跡展示館案内



▲整備された鴻臚館跡(鴻臚館跡展示館と遺跡広場)

- 入場料 無料
- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 12月29日~1月3日
- 交通 地下鉄「赤坂」駅から徒歩10分
西武バス「平和台」
「赤坂3丁目」下車、徒歩6分
- 所在地 福岡市中央区城内1-1
(舞鶴公園内)
- 電話 鴻臚館跡展示館
092-721-0282
福岡市教育委員会文化財整備課
092-711-4666



鴻臚館

わが国の古代の迎賓館である鴻臚館(こうろかん)は、平安時代に平安京(京都)、難波(大阪)、筑紫(福岡)の3カ所に置かれました。その中で場所が確認されたのは筑紫の鴻臚館だけです。筑紫の鴻臚館は、当初は筑紫館(つくしのむらつみ)と呼ばれ、その後、平安時代に中国風の鴻臚館という名に改められました。

鴻臚館は、688(持統天皇2)年の史料に筑紫館として初めて現れ、1047(承永2)年を最後に歴史上から姿を消すまでの約360年にわたって、唐や新羅からの外交使節や商客を迎えたり、遣唐使や遣新羅使の公的な宿舎として利用され、わが国の外交の窓口として、また大陸文化受容の門戸として重要な役割を果たしました。

鴻臚館跡の調査

鴻臚館跡は、1987(昭和62)年末に平和台野球場外野席の改修工事中に発見され、翌年度からその全容解明に向けて本格的な発掘調査が始まりました。また平成11年度からは平和台野球場跡地の発掘調査が行われるようになり、遺構や遺物の新しい発見が続いています。

これまでの発掘調査では、奈良時代から平安時代までの鴻臚館の建物の移り変わりや、さらにその北側にも別区画の建物が存在したことが明らかとなり、中国産陶磁器をはじめとする国際色豊かな遺物が大量に出土しています。



▲筑紫館の北側建物区画の布張り柱列を検出(平成12年度)



▲奈良時代のトイレ遺構から出土した木簡(平成2年度)



▲鴻臚館跡遺構概要図

- 第1期奈良時代前期
- 第2期奈良時代
- 第3期平安時代



▲平安時代の鴻臚館周辺復元景観
(発掘調査の成果をもとに想像復元、最近の調査でさらに北側にも別区画の建物が存在したことが明らかとなった)
鴻臚館は博多湾に面した見晴らしの良い小高い丘の上にあった

▲現在の鴻臚館跡周辺景観
福岡城築城や海岸の埋立によって現在の景観に変化した

鴻臚館の精華

鴻臚館跡からは、主に現在の河北省、浙江省、湖南省などの中国各地で生産された大量の陶磁器が出土しています。さらに、新羅～高麗王朝期の朝鮮産陶器、イスラム系陶器やベルシャ系のガラス器など、海と陸の交易ルートを経た遺物が出土しており、鴻臚館がその当時国際的な交易の拠点であったことを物語っています。



▲主な中国産陶磁器(唐代末～北宋代)



▲主な朝鮮産陶器(新羅～高麗初期)



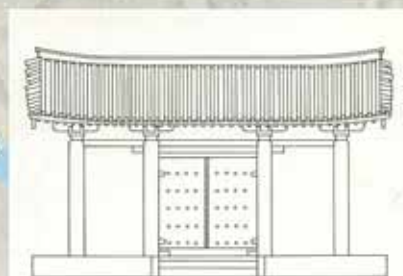
▲青釉陶器・ガラス器(ベルシャ・アッバース朝)



▲筑紫館の掘立柱建物跡を検出(平成3年度)



▲筑紫館の東門跡を検出(平成3・4年度)



▲東門復元図(澤村仁氏作図)